

「関東食育連携プラットフォーム～この指とまれ！～」エントリーシート(関東農政局)

■ 活動紹介

団体名等	石坂ファームハウス		
事業内容	ブルーベリー観光農園・高齢者農業体験農園・お米づくり講座(4回)・農家・農業作業体験受け入れ・「自然の恵みを楽しむ会」主宰		
所在地	〒191-0033 東京都日野市百草672-1	ホームページ等	http://ishizaka-farm-house.com
電話番号	090-2910-6506	F A X	
食育活動 (連携事例を含む)	<p>○お米づくり講座(4回) 田植えから稲刈りを体験。自由参加でかかしを作りながらお米の花を観察。脱穀後のわらの利用法としてわらの飾りを指導。最終回はお餅つきをして伝統行事と蒸し米を味わいます</p> <p>○保育園や幼稚園ほか団体の受け入れ 収穫体験だけでは食育活動としては足りないと感じ、種まきから栽培を指導。生育過程を見ながらひと作業を行い収穫までの様子を観察する園が増えてきている。そして収穫したものは畑からすぐに子どもたちに調理を体験させ食べさせます。ともに収穫を楽しみ、野菜を洗い調理をして一緒に食べる喜びは幼少期の経験とし必要。また炊事施設があるため、裏山で焚き付けの枝拾いをして里山の管理の様子も説明します。資源を無駄にしないこと、マッチを擦らせて火を見て熱さを感じる事の実体験させます</p> <p>○定期的に「自然の恵みを楽しむ会」では農家の伝統行事や食の行事を行ないます。繭玉づくり・味噌づくり・ポタモチ作り・ブルーベリージャム作り・しそジュース作り・そうめん流し・こんにゃく作りなど</p>		
食育活動写真	 <p>【稲刈り】</p> <p>【お餅つき】</p> <p>【ゴマの種まき】</p>		
活動の効果	ある40年近く受け入れている園では、親になった元園児が子どもを園に通わせまた農園を訪れてくれます。子どもごろの体験の記憶をいまだに持ち続け、同じように我が子に体験をさせたいと思ったそうです。子どもの頃の野外活動の体験が人生に役に立っていますとの声が聞けました		
継続への課題	種まきや収穫作業など畑の活動の際には、一緒に草むしりなど軽作業をしてもらうこともあります。「楽しい」だけの収穫作業は最終地点です。本来はその前の土づくりから関わりを持ってもらいながら、作物の栽培や生育を共に育て苦労や喜びを共感してもらえるようにしていきたい		

■ 連携を希望する取組について

連携を希望する業種等	
取組内容	種まきから収穫まで。2回から3回畑に足を運ぶことで、育てている作物以外の作物の成長や畑の周辺の様子も変わっていきます。住宅街の畑にはない風景があるので、四季の変化がはっきりしています。里山の雑木林の芽吹く新緑のきれいな5月、畑の周りを飛ぶ蝶を眺めながらお昼過ぎまでお弁当を食べてから遊びます。梅雨時期の水田の風景。カエルの声が耳に残ります。真夏は日差しを遮る木陰を探し、汗をかいて収穫。じゃがいも堀りは夢中になり泥の手で汗を拭いて汚れも気にしない様子。秋は作物の収穫が終わった場所で畑で裸足遊びをさせることも。サツマイモのツルで縄跳び遊び。食べる・見る・触る・匂い・聞く、を体験して来た時と帰る時の子どもたちの表情が全然違うのが受け入れをしている醍醐味です